

歴史散歩

No.43

中江藤樹先生と大溝

江戸時代初期の陽明学者で近江聖人と親しまれる中江藤樹先生は、慶長13年（1608年）3月7日、近江国高島郡小川村（現在の高島市安曇川町上小川）に生まれました。当時、小川村は大溝藩が所有している土地でした。大溝藩は教育や学問への関心が深く、藩校脩身堂も近隣の諸藩にさきがけて開校されています。藤樹先生の「孝」の思想を基本にした「知行合一」と「致良知」の教えは、人々に大きな感化を与えました。

大溝藩二代藩主分節嘉治も藤樹先生の「徳化（人徳をもつて感化する）」を聞き、正保3年（1646年）に藤樹先生を招いています。享保6年（1721年）には、五代藩主分節光忠が、藤樹書院の地子（税）を免除したうえ、祭祀料として補助も行いました。享保18年8月2日には、書院に参拝もしています。さらに十一代藩主光貞は、藩の儒官川田龜江に命じて、『藤樹先生年譜』と『徳本堂記』を編集させ、河田興に依頼して「致良知」の三大文字のあとがきも作っています。このように、歴代大溝藩主は、藤樹書院の保護と維持に努め、藩士たちも藤樹先生を敬慕（尊敬して人柄を慕う）し、藤樹の教えを学ぶ者も多くいました。



▶藤樹女学校

時は流れ、昭和11年、大溝町の町立実科女学校は県立に移管され、県立藤樹実科高等女学校となりました。初代校長には藤樹研究家の松本義徳が任命され、中江藤樹の学風を基盤とする徳育重視の女学校として歩むことになりました。それは、当時の校章や校歌からもつかがわれます。昭和16年、中江藤樹の十一代目に当たる中江

勝が第二代校長になり、以後、敗戦後に新制高校に編成替えになるまで校長の職にあつて、「致良知」の教えに立った教育を行いました。今日に至っても、藤樹先生の教えは、地元青柳小学校において、しっかりと受け継がれ、また、地元住民の方々の熱意により、広がりを見せています。特に今年は、生誕400年の記念すべき年にあたり、高島市・高島市教育委員会・藤樹先生生誕400年祭実行委員会が記念事業を実施しているところです。「近江聖人・中江藤樹」の教えを再認識していただくよい機会となる（文化財課）



きれいな花の傍らで、新しい命が宿っています。（モリアオガエルの卵塊）

編集後記



6月7日、安曇川町の健康の森梅ノ子運動公園で行われたグラウンド・ゴルフ家族ペア大会。今年は82組が参加しました。ワンショットで一喜一憂。夫婦で、家族で、グラウンドゴルフの楽しさを分かち合いました。

●特集1 ②-⑤ 夏はやっぱり盆踊り
●特集2 ⑥-⑨ 守れなかった命を見つめて

- 10・11 お知らせ拡大版
- 12 みんなで5・7・5
- 13 市長日記・省エネ長者作戦
- 14・15 まちなタ写真館
- 16 健康生活していますか？
- 17 びょういんだより
- 18 教育委員会 information
- 19 そうだ図書館に行こう！
- 20・21 国保年金あらかると
- 22-25 情報おしらせ版
- 26 藤樹先生生誕400年祭関連事業
- 27 窓口・納税
- 28 歴史散歩